

▼編集後記

『ゲシヒテ』第九号をお届けいたします。

今年度より編集実務を担当させていただいております。不慣れなゆえに、ご投稿くださいました諸先生方ならびに関係の皆様にも多大なご迷惑をおかけしたことは思いますが、皆様のご協力のおかげをもちまして発行にこぎつけることができました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

今号では、前号の日本人によるドイツ研究の意義を扱ったシンポジウム記録に続き、ドイツ研究の重要なテーマであるナチズム研究の今日性・展望を問う特集を掲載することができました。研究の意義が問われて久しい現在、このような試みを発展させる場として『ゲシヒテ』が資することができましたら、編集に携わった者として幸いに存じます。

最後になりましたが、今号では書評を取り上げることができませんでした。読者の皆様には、論文・書評を活発にご投稿くださいますようお願い申し上げます。(J.S)

記録的な発行の遅れとなってしまいました。『ゲシヒテ』第九号をお届けします。戦後西ドイツの政治運動史と一九世紀前半の軍事社会史に関するふたつの投稿論文に加えて、昨年のドイツ現代史学会におけるナチズム研究に関するシンポジウムの特集を収めております。

さて、発行が遅れている間に、イギリスでは国民投票が行われ、欧州連合離脱を決定しました。衝撃の大きさは、一九八九年のベルリンの壁崩壊に匹敵するでしょうか。壁崩壊後には、それまでには想像もつかなかった一連の出来事が次々と起こり、欧州統合への動きが加速しました。とりよるによつては、「自由」を求める旧東ドイツのV O L Kによる運動から始まったともいえる欧州統合が、「自由」を求めるイギリスのV O L Kによつて揺さぶられています。国民投票後には何が待ち受けているのでしょうか。今年の出来事は欧州統合の破綻へとつながるのでしょうか。時代が大きく動くとき、歴史家は事態を注視するしかないのでしょうか。(羽漫)

▼編集委員

服部 伸 (同志社大学)

高橋秀寿 (立命館大学)

中野智世 (成城大学)

近藤潤三 (元・愛知教育大学)

丸島宏太 (敬和学園大学)

北村昌史 (大阪市立大学)

▼編集実務

佐々木淳希 (京都在学・院)

ゲシヒテ

第9号

2016年3月31日発行

▼編集発行

ドイツ現代史研究会 (代表・北村昌史)

〒602-8580

京都市上京区今出川通烏丸東入

同志社大学文学部 服部伸研究室内

▼印刷

株式会社オーエム